

公園内で見られる植物

写真は4月22日(土)
自然観察会で見られた
植物です



モチノキ (モチノキ科)

庭木として古くから親しまれてきた樹木です。雄株と雌株があり雌株には淡い黄色の小花をたくさん付けます。これが秋になると真っ赤な実となり常緑の葉っぱと相まってとても美しく、クリスマスカラーをイメージさせます。樹皮から鳥もちが取れるのでこの名があります。



ヒメハギ (ヒメハギ科)

日当たりのよい場所に生える常緑の多年草。ハギの花に似た紫色の花だが、小さい植物なので花が咲いていないと見落としてしましそうな植物です。



カスミザクラ (バラ科)

同じ場所の山桜より2週間ほど遅く開花するようです。殆ど花びらは白色ですが小さい花が沢山咲くので目立ちます。近くで見るとは少ないのですが、車で走っていると点々と山に咲いているのを遠目で見ることがあります。



シュンラン (ラン科)

野生ランの1種で、人里近くの雑木林に自生する、シンピジウムの仲間です。日本原産と中国原産とありますが、葉の光沢が中国シュンランの方が強く、香りもあり、大きな花びらになるそうです。これはどちらでしょうか？花を塩漬けにして蘭茶になるようです。



サルトリイバラ (ユリ科)

花が咲いているのを目にするのは珍しいですね。葉の色とよく似ているので、見過ごしてしまいます。この花芽は天ぷらにして食べられます。



オウレン (キンポウゲ科)

山地の林内に生える常緑の多年草。花と思っている白色の部分は実は萼で花弁は小さく線形のもので。昔から消炎、止血作用があり生薬として使用されています。



ウワミズザクラ (バラ科)

この穂をつぼみの時に塩漬けにしてお茶として飲みます。クマリンの香りがします。クマリンとは桜餅を包む葉 (オオシマザクラの塩漬け) の匂いと言ったらいいでしょうか？

この穂のつぼみは天ぷらにして食べられます。



チゴユリ (ユリ科)

下向きに白いかわいらしい花を付けていますね。名前の由来は、小さいユリの意味ですね。1個の花を付けることが多いのですが、これは2個の花を付けています。



イカリソウ (メギ科)

イカリソウの名前は花の形からきています。船の錨にそっくりですね。日本産のイカリソウは生薬：和淫羊藿（わいんようかく）といって、地上部の茎葉を刈り採り天日で乾燥させて細かく刻んで用います。日本の民間薬として古くから用いられているそうです。